

学習内容報告書 フォーマット

学校名	小豆島町立安田小学校
授業者	落合 航

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海とともに 生きる わたしたち「海と石」

1-2. 学年

5 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

安田小学校では5年生の児童が稚魚放流や海浜清掃など、小豆島の海との関わりを学習する。
4年生の総合的な学習の時間では、校区内を支えている人や環境について探究する学習を通して、それらに関わる人々の思いを理解したり、小豆島の自然の美しさを肌で感じたりしてきた。また、学習してきたことを地図に書き込んでいくことで、小豆島の海に携わっている人や海に関わる産業などにも着目し、海についてさらにくわしく知りたいという意欲を高めてきた。
「海」の学習では、海と石との関係やお魚教室など体験活動を中心に行い、小豆島の海に関わる人と触れ合いながら海とのつながりを考えていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は瀬戸内海に囲まれた小豆島の東部に位置しており、海に隣接しているため校区は水産業や石材業が盛んである。そこで、「海と環境」「海と産業」「海と歴史」というテーマで探究する活動を通して、自分たちの生活は、海と密接に関連し、海的环境を生かし、人々の工夫と努力の上になり立っていることを理解できるようにしたい。また、地域や関係機関と連携した体験学習を通して、地域の人々が自然を大切にしながら、自然を活用するために培ってきた知識や技を学び、自分たちが生まれ育った地域を深く理解することや、地域の良さを感じ取ることで、主体的、創造的に生き、地域に貢献する子供を育てることをねらいとしている。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- 海に親しむ
海とのつながりの深い福田地区の探索や集団宿泊訓練の体験活動を通して、海に対する関心を持ち、海 naturally 親しみ、海に進んで関わろうとする気持ちを育てる。
- 海を知る
海技訓練に参加し船員の仕事に興味をもったり、水産試験場で栽培漁業の見学をしたりすることで、海 naturally 自然や資源、海をとりまく人や社会との深い関わりについて関心を持ち、進んで調べようとする気持ちを育てる。
- 海を守る
小豆島漁協方から水産業に関わる講話を聞いたり、稚魚放流や海浜清掃などの体験活動を通して、海的环境問題に主体的に関わりについて関心を持ち、進んで関わろうとする気持ちを育てる。
- 海を利用する。
大阪城の巨大石垣を築くために小豆島の石を海を渡って運搬していたことから、海と石の関係を調べていくことで海を利用してきた人たちの工夫を考え、それらを持続的に利用していこうする気持ちを育てる。

1-7. 単元の展開（全 45 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	○オリエンテーション 小豆島の環境や水産業の問題点を知り、課題意識をもつ。	・4年生で学習した安田の人や自然、特産品を確認する。
2	○わたしたちの海を知ろう 「ようこそ1年生ふれあい町探検ツアー」 ・福田地区の探索 ・クリーン作戦 ・稚魚放流 ・各班ごとに振り返りをする。	・探検ツアーのコースを用意する。 ・ふれあい班ごとに分かれ、1年生を案内する。 ・小豆島漁業組合に依頼する。
8 本 時	○わたしたちの海を調べよう① ・「海と石」についての学習計画を立てる。 ・石割体験・鍛冶造りの見学・筏に石を乗せ浮かべる体験・丁場見学の中から自分たちの課題解決ができる体験活動を選択し、調べる。 ・調べたことをワークシートにまとめる。 ・分かったことを発表し、交流する。	・海と石の関係を歴史や産業とつないで、調べていけるようにする。 ・小豆島町教育委員会社会教育課学術専門員に依頼する。
12	○わたしたちの海を調べよう② ・「集団宿泊学習」 シーカヤック・釣り・海浜清掃 ・体験したことを振り返り、感想を発表する。	・海での体験活動を楽しみ、海に親しめるようにする。 ・一般財団法人 小豆島ふるさと村
12	○わたしたちの海を調べよう③ ・「水産業」についての学習計画を立てる。 ・アサリの飼育・海底清掃活動・魚食教室・のり工場見学・水産出前授業の中から自分たちの課題解決ができる体験活動を選択し、調べる。 ・調べたことをワークシートにまとめる。 ・分かったことを発表し、交流する。	・小豆島でとれる魚について ・小豆島のおもな漁法について ・漁師の一日の過ごし方について ・魚市場について ・小豆島漁業振興協議会に依頼する。
2	○わたしたちの海を調べよう④ ・「海技訓練」オンライン会議 ・船内の案内と解説、実習生の1日、船乗りの仕事について、映像を見ながら講話を聞く。 ・大成丸の方たちの思いを聞く。 ・講師の方や実習生との質問をし、交流する。 ・分かったことをワークシートにまとめる。 ・分かったことや感想を発表する。	・海技訓練の様子や、船長や訓練生の海に対する思いを聞けるようにする。 ・国立波方海上技術短期大学校
8	○語ろう わたしたちの海 ・意見交流会の計画を立てる。 ・小豆島の海の特徴や良さを、これまで調べたことをもとにまとめる。 ・小豆島の海を守るために、自分ができることを考える。 ・意見交流会の準備をする。 ・意見交流会を開く。	・意見交流会でお世話になった外部講師を招待したり、感謝の手紙を書いたりする。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

海と石についてこれまで調べてきたこと振り返り話し合うことで、海は古くから小豆島の産業の発展には欠かせない物であることに気付くことができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 海と石の学習を振り返り、分かったことやできるようになったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小豆島の貴重な石を大阪城まで運ぶために、船を使って何日もかけて海を渡っていたのはすごい。 ・大阪に着くまでに、石を乗せた船が沈んでしまったこともある。 ・そんなにまでして、どうして石を運んだのだろう。 ・石ばかりでなく、島の特産物も船で運んでいる。 <p>2 海を使って運ぶ良さを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔は自動車が無かったので、馬を使って運搬していたから、あまりたくさんの物は運搬できなかった。 ・しかし、水に浮く船はたくさんの物を運ぶことができる。 ・だから、大阪城までたくさんの石を運ぶことができた。 <p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小豆島は海があったから、たくさんの石やその他の特産物などを運ぶことができた。 ・周りに海がなかったら運べなかった。 <p>4 本時の振り返りをし、意見文に書き入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先人の知恵を大切にして、さらに海と船を利用して小豆島の良さを広めていこう。 ・そのためにもきれいな海にしていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題をつかむために、これまでの学習を振り返るように助言する。 ・小豆島の石が大阪城の石垣に使われていることにもふれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験した刻印作りにふれたり、筏に石を乗せて運んでいる VTR を見せたりすることで、海を利用する良さを考えるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・「小豆島だから」「周りが海」「島の特産物」に着目してまとめるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会に向けて、環境問題とも関連付けて意見文を書くようにする。 <p>翻海の環境にも気を配りながら、これからも海を利用していこうという気持ちをもてたか。（意見文）</p>

3. 今回の活動の自己評価

海の利用の良さを産業の発展とつなげて考えるために、小豆島の海と石の関係を調べていくようにした。石の拓本作りや石工の道具作りを調べたり、さらに映像ではあるが、石垣用の石を筏に乗せて運搬する様子を見たりして、船を利用することで島の産業を他の地域に広めたことを理解することができた。コロナ禍で児童が選択した体験活動はできなかったが、海と産業の関係を身近に感じ取ることができた。

年度の終わり頃になって児童一人一台タブレットが導入され、個別に調べたり、まとめたりできるようになった。今後海との関わりを進めていく上で、ICT 機器を活用して個々の表現や思いを表現できたことも良かった。

4. 今後の課題

体験活動として、大天狗岩という大阪城残石跡の丁場見学や石の刻印の拓本を採ったり、ノミで石に印を彫ったりする作業ができたが、筏に石を積み浮かせる活動など児童の関心に応じた体験活動の選択ができていないので、体験活動をする時期と外部との連携を十分に考えていきたい。

全体として、受け身の学習となった。関心を高め多くの知見を得ることができたので、海に対して児童は自分がどう関わっていくのかを考えさせ、行動に移していくのが必要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

学校としては、活動の折々にホームページで紹介したが、保護者や地域への発信していくのに当たって、ICT 機器を活用していきたいと考える。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立バイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。